

委員長（冒頭あいさつ）

皆さんおはようございます。本日は皆様お忙しい中、この第二回目の平和宣言文起草委員会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。今回は皆様から様々なご意見をいただきました。ご意見をもとにしまして、素案をお示ししておりますので、これを元にまた皆様方のご意見を賜りたいと思っております。

前回の起草委員会では、ウクライナ情勢を背景といたしまして、核兵器の脅威が一段と強まっている、そういう認識のもと、今年の宣言文におきまして、被爆の実相を改めてしっかりと強調することが我々、私を含めですね、ここにいらっしゃる委員の皆様の共通認識、総意であると確認できたと理解しております。

文案につきましては後ほど読み上げますけれども、皆様のご意見も踏まえまして、今こそ宣言文の中で、核兵器がもたらす非人道的な結末を被爆地から世界に対して、強く訴えるということを考えていきたいと思っております。また私も被爆2世でございますけれども、私のような被爆2世を含むですね、次の世代がしっかりと被爆者の平和への思いを受け継いでいって、そしてたゆまず発信していくこと、そしてその決意を示していきたいというふうに思っております。

今回作成しております文案でございますけれども、あくまでたたき台でございます。来月に開催いたします3回目の会議におきまして、改めて、よりよい文案をお示しできますよう、本日はどうぞ忌憚のないご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございます。

委員長

それでは議事を進行させていただきます。まず私の方から、平和宣言文案を朗読させていただきます。

（素案朗読）

委員長

以上でございます。

平和宣言文案は、事前に送付し、ご覧になっていることと思っておりますので、それぞれの委員の方からご意見を賜りたいと思っております。それでは、よろしくお願ひいたします。

委員

全体的に、言うべきことは私としては基本的にちゃんと入っているような印象を持っております。最初、被爆者の方のエピソードに始まって、その後核保有国、核の傘の下にいる国に対する訴え、日本政府に訴え、そして世界の皆さんに対する訴えという形になっているわけですが、50行目と51行目のところの被爆者の平均年齢、日本政

府に対するお願いが、ここですかね、少し気になります。流れとしては、日本政府に対する話の中で言う可能性はいかがですかということですね。

あと、ロシアのウクライナ侵攻について、想起させる文書は入っていますけれども、長崎という立場の中から、ウクライナの戦禍に対する、連帯や連携の思いを伝えるというのは、入ってもいいのではないかと思いました。私から以上です。

委員

私も委員とかなり評価が同じです。基本的な構成は大体毎年最近これかなと思います。いくつか気づいた点ですが、1つはやはり、ウクライナで核兵器が使われてはいけないということが喫緊の課題だと思いますので、ウクライナに何らかの形で触れて、その辺りの懸念と、この戦争を一刻も早く核が使われないうまま平和にたどりつくようにというメッセージがあってもいいのかなと思いました。

それから、37行目から42行目まで、核兵器が使われた場合の核の放射能災害、帰結がはいっているのですが、少し専門的に言うと、いろんな話がやや混乱している感じがあって、最初の37から39行目は気候変動ですよ。そして、40行目以降は含めて全て大変だという内容になっているのかと思うのですが、多分他の要素も入れる必要があると思います。これから増えると思うのでコンパクトにして、もう使われたら気候変動も起きるし、放射能の災害も大変だし、それは1発の引き金で世界規模になるかもしれないし、というようなことで、コンパクトにされた方がいいかなと思いました。細かく書けば書くほど、科学的にはあれが足りない、これが足りないという議論。例えば、これはあくまで都市が攻撃された場合のみのシミュレーションですから。今は主に軍事が標的だと思いますので、そんなことではないですよというような反応があるかなと思いますので、短くした方が、敢えて短くした方が、インパクトもあるでしょうし、正確なのかなと思います。

もう1つはですね、難しいかと思うのですが、福島のことを例年ご指摘があるので、今回も福島の皆さんのことに触れるかなと思っているところです。

委員

最初ですね、谷口さんの話を入れていただいたのは本当にありがたいことだと思います。2行目の4メートルというのがね、私たちは、数メートルっていうことで聞いているわけですけど、そのところを少し確認していただきたいなということです。

それから、24行目、25行目ですね。私たち被爆者は、G7についてはですね、期待はしていたけれども、終わってみると落胆と言うかな、本当に私たちの願いとは違う。核抑止論が正当化されて、核廃絶がこの究極の彼方に送られてしまったと。特にサーローさんなどもですね、そういったことをおっしゃっていますし。被爆者としてはですね、このG7というのは広島会議ですね、それは評価しないというのが私たち

被爆者の考えです。ですからその点をどう表現するか、なかなか難しいことですが、もう少し変えた方がいいのではないかと思います。

それから、30行のG7議長国の責務と日本は唯一の戦争被爆国ですね。だから、そのところは強調していかなければならないのではないかと思います。

32行目の「積極的に関与を行う」というのは、私たちはもう少し具体的にこの禁止条約に参加せよということを謳ったほうがいいのではないかと思います。

それから、今、岸田総理になってからですね、軍事費が倍増している。5年間で43兆円という、平和憲法第9条がある中で、軍拡の路線に本当に乗っていいのかどうか。そういったことが、この国会で論議されないで、いわゆる内閣の中だけで決められていて、そしてものすごいその予算についてですね。あの特別な法案まで作って、軍拡をしていくという。これは、戦争を絶対してはいけないという、憲法をもっと大事にしなければならないのではないかと。その辺を含めてほしいなと思います。だから、私たち被爆者として、また被爆地としては憲法をですね、守るという決意を述べたほうがいいのではないかと思います。

それから、原発についてですね、新しい原発法もつくられて、12年前の福島事故がなかったようなですね、新しい原発の安全神話論が出てきている。そして、タンクに溜めている水を海に放流すると。地元の漁業者なども反発をしているわけですね、反対を。そういったことを入れて、福島と共に添うというようなことを、謳ってもらいたいと思います。以上です。

委員

よく書かれているなと思います。それから、平均年齢85歳ということで、私もちょうど平均なのかなと思っておりました。

それで、長崎の子どもたちはみんなこの平和集会で宣言文を聞くのですよ。だから、子どもたちがこうしてプリントを持って聞くわけではありません。耳から聞きます。だから、私たちは今こうして文字を読んでいますけども、耳から聞くのと、目から、例えばですね、28行目「視点から対話を進め」、対話というのは、耳から聞いても分かりませんね、子どもは。だから、その辺の言葉をいくつかこう変えていただければいいのではないかなと思います。

それから18行目、「78年前に原子雲の下で人間に何が起こったのか」。永井隆先生はおっしゃっていますね、子どもたちに。あの日命を落としていった友達のことを絶対に忘れるな。忘れるとあの日命を落とした子どもたちのことを忘れる。それから、内田伯さんは、「目から消えるものは心からも消える」とおっしゃっています。だから、その辺りをもう少し子どもたちに分かるようにお話していただけたらなと思います。

私が今なぜそれを言うかということ、私は今、長崎の子どもたち、それからそれこそ日本、色々なところから修学旅行で来ます。子どもたちが来ます。その時に、ある時にふ

っと思いました。追悼平和祈念館。すぐ隣にありますよね。そしたら夏の暑い盛りでした。そしたら、あそこにずっと水が張ってあるのですけども、子どもが、気持ちがいいってというような感じでその水を触りました。

それで、私が講話の中で、水を求めていっぱいの人がなくなったのだから水をどうぞという意味でここには置いてあるのだと。それから、講話室の壁は板壁、壁は板を表しています。この板、木目があるでしょ。これは何を表しているか分かる。これは、たかさんの家が燃えてしまった。木材は燃えてしまったのを表している。そのようにして話している。

それからもう1つ私が取り上げてほしいと思うのが、名簿。名前が残されてない。名前すら残されずに亡くなっていった子どもたちに、大人の人たちがいる。それは、追悼祈念館の中に名簿がずらっと置いてありますよね。新しい人ほど上です。1番下の段は、名前がないのです。名前すら残されてない、生きていたという証すら残されてもない。それが、毎年名簿に風を送る作業をされますよね、市役所の。だから、私は子どもたちには言います。みんなの1番最初、お父さんお母さんからのプレゼントは何。ゲームでもケーキでもないでしょ、名前でしょって。その名前すら残されてない。こんな悲しいことはないね。だから、追悼平和祈念館のこと、追悼空間、250メートル先が爆心地ですよ。追悼平和祈念館の水とか、木目とか名前とか、とにかく人間が生きていたのよという。それはですね、例えば37行目、核兵器がもし使われたら、「もし」という言葉が入っているのですけど、私は、もしではなくて、もう使われる、その現実がそこに見えてきていると。だから、「もし」という言葉がいいのかな、どうなのかなという気持ちを持ちました。それから、委員もおっしゃいましたが、長崎を最後の被爆地にという、これは入れてほしいなど。長崎を最後の被爆地、もうどこでもではない、長崎を最後にしようという、そういうことです。あとは皆さんが書かれているとおりです。以上です。

委員

一読しまして、非常に分かりやすい、流れもすっきりとした宣言文だなと思いました。冒頭の、谷口さんのエピソードですけれども、非常に国際的にも、ピーター・タウンゼントさんとか、それから、スーザン・サザード先生等の本にも特にメインで扱われていますので、そういった本を紐解いてもらえればなと感じました。それでですね、特に、知名度の点でもありますし、それから、忘却が新しい原爆肯定に流れていくことを恐れますというこのメッセージは、非常に力のあるメッセージだなと感じました。1点ですね、これだけの悲惨な状況、被害も起こったのは、実はもう3キロも離れた地点であるということも付け加えた方が、被害の大きさを想像しやすいのかなと思いました。

それから、G7会議ですね。委員もおっしゃったように、この会議への評価というのは、賛否が分かれていると思います。それらの評価も踏まえた記述があっていいのかな

と思ったのですが、読んでみると、色々と配慮もしてくださっているようで、例えば、28 番の具体的な行動、それから、先ほど指摘、また、32 行目の積極的な関与ですね。どちらも抽象的な表現になっていて、これを具体的に記述することで、否の意見も踏まえられることになるのではないかと感じました。

例えば、28 行の方でしたら、核兵器削減のための交渉などそうしたところですね。具体的な行動を明記していくということ。32 行でしたら、締約国会議への参加、あるいはもう批准といったところまで踏み込んで、そうした方向、具体化していくということですね、そのような抽象的な表現を具体的にすることで、否の意見も踏まえられないかなと感じました。

それから、36 番の世界の皆さんという表現ですが、今回は、これまでよく使われてきた市民社会という言葉が抜けましたけれども、この世界の皆さんという言葉が、その市民社会を想定した表現になっているのかなと感じましたので、ここはやはり、世界の皆さんというのは重要ワードになるのではないかなと感じました。それをサポートしていくような内容もまた大事になってくるだろうと。国連事務局の事務次長の中満泉さんが、田上前市長に日本政府が動かないのは、国民の声が小さいからではないかと言って、田上前市長が非常にドキッとしたというエピソードがあります。このことは、国際社会にも同じことが言えるのではないかなと感じます。実はですね、核保有国の人口を計算してみたのです。38 億人いました。これは世界人口の半分近いです。これに対して、批准国、核兵器禁止条約の批准国の人口を足してみたら、25 億でした。約半数に対して約 3 分の 1 ということです。しかし、考えてみると、その保有国の 38 億のうち、自分の政府の方針を支持している人たちがどれだけいるかということですね。そう考えると、まず核保有国の国民に対してですね、是非声を上げてほしいと、そういうメッセージがあっただけではないかと思いました。ですから、例えば、特に、保有国の皆さん、自国の特に非人道的な兵器というのは、言葉の意味として、矛盾をしていますので、人道的な兵器というのはありませんから、そここのところの表現は少し難しいのですけれども、特に非人道的な、核兵器保有に目をつぶらないでくださいとか、そういった表現が、世界の皆さんへの呼びかけ、市民社会への呼びかけとして、あっただけではないかなと感じました。

それから、45 行目の平和の文化ですが、この平和の文化は元々、ユネスコ発祥の言葉で、この前にユネスコの憲章がありますので、聞く人である程度ユネスコ憲章のことを知っている人は、その文脈で読んでいくと思います。そうしますと、ユネスコ憲章の文脈で読んでいくと、この平和の文化というのは、例えば、直接的な暴力だけではなくて、構造的な暴力とか、文化的な暴力といったものがない社会ということで、抑圧や人権、抑圧がない、人権が保障されているから、人間同士の格差、そして、国同士の格差、そういったものがない社会、それを指す言葉ですので、そういったものを踏まえた内容も少し入れていただければ、うまくこのユネスコ憲章と、長崎が発信する平和の文化とい

うのが呼応するのではないかなと感じました。特に途上国、グローバルサウスが核兵器の問題に関して無関心と言いますか、そういった部分もよく言われます。一方で、禁止条約の批准国も非常に途上国に多いという事実もありますので、そういったところに配慮をした表現が、より共感と支持を得ていくのではないかなと感じました。

それから、先ほど委員からもありましたように、例えば「一縷」という言葉は、聞いて全く分からないのではないかなと。「一筋」というような言葉に変えるのがいいのかなと感じました。以上です。

委員

今回最初に谷口稜嘩さんの体験を持ってきたところは、谷口さんは長い間病床にあって、その後も皮膚が皮膚呼吸しないということで、ずっと大変な思いを、亡くなるまで大変な思いをされてきたという、死ぬまでずっと苦しんできたことを表現するには谷口さんのこの体験というのは、一番代表的なものになるのかなと思いました。これに加えていただきたいのは、谷口さんご本人もそうですけれども、谷口さんを支えてきた家族の方々もとても大変な思いをされてきていて、そして皮膚の移植を続けてきたところが結局伸びないわけで、太ることもできない。そういう体調管理とか、あと皮膚にクリームを風呂上りに塗るなど、家族も支えてきていることを伝えるとともに、家族も苦しみとか、あと不安とか、またその子供の二世や三世の人たちも放射線の影響を遺伝的影響はないと言われていながらも、そういう不安を持って生きてきたということが、原子爆弾の非人道的ということだと思うので、そのあたりをもう少しつけ加えていただきたいなと思いました。

あと、毎年各国のリーダーの方に被爆地を訪れてくださいという言葉を入れてきて、今回G7で首脳の方に見ていただいた中で、核兵器廃絶に向けての話が進んでいったということですが、G7に参加された首脳の方だけでなく、それ以外の方もこれをきっかけにしていきたいと思うので、引き続き各国のリーダーの方には実相を知っていただくことから核兵器廃絶に繋がっていくと思うので、その呼びかけはまた今年も入れていただきたいなと思いました。

それから、36行目から「世界の皆さん、思い描いてください」と呼びかけをして、どうということが起こるのか、過程というかその表現をしている部分はすごくいいなと思いました。ただ、その内容を読んでも、これでは前回の委員会の時に、私と他の委員が言ったのですけれども、原子爆弾は本当にただの爆弾の大きなものではなく、放射能を含んだ、それこそそのときだけではなく、それ以降もずっと長年影響が出る恐ろしい兵器ということの表現がここにはできてないような気がしました。核爆発で巻き上がった粉じんではなく、それは一緒に放射性物質も降り注ぐ、世界に降り注ぐわけですので、だからこそ、恐ろしいものだということを分かっていたいただくためには、そこら辺を詳しく、放射線の影響があるのだということを中心に前面に出していただければ。怖さというか本当に

恐ろしいものなのだというのが伝わるのではないかなと感じました。

47 行目の平和の文化、ここ数年この平和の文化を入れてきているのですけれども、とてもいい言葉で、これは今年も入れていただいた方がいいなと思いました。

それから「長崎を最後の被爆地に」という言葉は今後も入れていきたいと思いますというお話でしたので、私としては 55 行目の、「長崎は平和を希求する全ての人々と連帯しながら」の後にでも、「長崎を最後の被爆地に」という思いを持ちつつ、核兵器廃絶・世界恒久平和の実現に力を尽くし続けることを誓います、宣言します、ともっていった方がいいのではないかな。この言葉は入れるべきではないかな。今後長崎を本当に最後で今後使われないように私たちはこういうことを訴えたのだという最後の締めくくりが必要ではないかなと思いました。

今年はロシアのウクライナ侵攻についての国名とかははっきりと書かれていないのですけれども、そういうこともはっきりと国名を入れないと、これは世界の方が聞くわけですので、もしかしたらそういうことを知らない国もあるかもしれない、現実こういうことが起こっているのだということをはっきりと国名を入れて訴えていくべきではないかなと思いました。以上です。

委員

ちょっとかなりダブるところもあるかなと思うのですけれども、冒頭の谷口さんの体験ということでいろんな側面が谷口さんの被害というのはあると思うのですけれども、ちょっと巨大な爆発というような印象でとどまる感じがするのですよね。

もちろん、その無差別攻撃というのが原爆の大きな特徴の一つで巨大爆発というところではそうなのですけれども、それでも実際たくさんの方が被爆するところがあるのですが、生き残った被爆者が放射線や放射性物質による被爆ですね、後障害という形で次々亡くなっていったというところとか、それから苦しみ続ける人生を歩んだことですね。

生き残った人々が長期にわたって苦しめられ、また健康と命を奪われ、奪っていくというものが核兵器の一つの特徴ではないかなと思いますので、そういった表現がもう少し入るといいのではないかなと、後世にまで影響が及ぶ可能性というところもですね、触れられれば、触れてもいいのではないかなと思います。

それから、核兵器の使用と戦争というのは同じ地続きにありまして、ウクライナ侵攻のロシアの姿勢しかりですね。世界は武力対武力という形でシフトしてきているのですけれども、日本は平和憲法があって、他国とは一線を画してきたという、そこが評価もされてきたというところでもあると思います。

前回の会議で複数の委員が憲法の擁護とか、特に 9 条については言及されたと思うのですけれども、それも改憲の動きがあるっていうだけではなく、日本が世界の動向を背景にして、その軍事分野が拡大し続けていて、いわゆるその憲法の平和主義に基づく、

専守防衛の形骸化が危惧されるというか、形骸化が進んでいるという不安といいますか、見方からだと思います。防衛費が従来の 1.5 倍の 43 億に増やす方針ですね、ちょうど昨日その財源法が成立しましたけれども、その増税自体は先送りしましたけれども、これもなくなったわけではない。

それから反撃能力の保有とかですね。それに連動するその宇宙安全保障構想、こちらでも決定したということで、加速度的に軍拡が進んでいるというのは間違いないのではないかなと思っております。核兵器の問題と軍事の問題がセットだと思いますので、核兵器だけ反対すればいいというものではなく、被爆地として現在の国内のリアルな問題として、軍拡への懸念も表明すべきではないかと。そして、その日本が世界戦争に巻き込まれないように独自の外交にこそ注力というような指摘が必要ではないかなという感想を持っております。

それから 24 行のところです。G7 サミットですけれども、その G7 サミットが「一縷」の望みの光というふうな形で表現されていますけれども、先ほどご指摘にありました通り、G7 の広島ビジョンではですね、G7 側の核兵器の抑止力を正当化した内容になっておまして、これは見過ごすことはできないのではないかと思います。

見過ごすことはできないけれども、コミットメントを再確認した点は評価したいといって、その賛否、あるいは評価と課題というところはですね、両方出さないと。これはサミット広島ビジョンを全面的に被爆者・被爆地が受け入れているというようなことを世界に発信することになるのではないかなと思います。

あとはちょっと細くなるのですが、27 行目の「人間の安全保障」、これもポンと出てくるのですが、ちょっとわからない人は聞き飛ばしてしまうと思いますので、一言ですね、説明があるかなと思います。

それから 28 行目、「具体的な行動」というところはですね、抽象的過ぎるということで先ほどご指摘があったような部分で、もう一步踏み込んだ表現がないと、何を求めているのかよく分からないというところではないかなと思います。

それから 31 行目の、「今こそリーダーシップを」という表現はですね、これ、もうずっと、リーダーシップを求めているわけで、「早くはっきりしてください」というようなより強い表現がいいのではないかなと思います。

福島について言及がないというところで、核の被害を受けた地として復興過程にありまして、ふるさとの人々も多くいる、この地に何らかのエールを送るということはあっていいのではないかなと思います。

あと被爆体験者についてですね、一言触れているのですが、ここも本当に書き出すと長くなってしまいうところもあると思いますし、頭を悩ませるところだと思いますけれども、せめて「救済を求めます」というところですね、「強く求めます」とか。一言入れていただきたいと。被爆体験者はもう時間がありませんし、今その広島の黒い雨被害、被爆地被害者とのですね、被害格差というのが、救済の格差というのが生

まれているのは事実ですので、より強い表現が求められるのではないかと思います。以上です。

委員

全体の構成は、うまくできているのではないかなと思います。実相があって、あとずっと各種の訴えという流れは非常にいいと思います。そういう中で、3点申し上げたいと思います。33、34行目のところで、これは多分、北朝鮮のことを言っているのだと思うのですが、前回も申し上げましたけれども、使用のリスクが一番高いのは北朝鮮だと思うのです。その対策をしっかりとらないと逆にそこをしっかりとできれば、8割方ありますリスクは軽減するというふうに思いますけれども、そのために、しかし、北朝鮮の話なんかでやるかと、それはできないという中で、ここに北東アジア非核兵器地帯構想が出てきているのだと思いますけれども、ここは具体化して早くこの北東アジアを収めることがずいぶん世界のリスクを軽減することに繋がるのではないかなと思いますので、その書きぶりでもしょうがないと思いますけど、少しそういったところがあるのだという気がします。

それから、2つ目はですね、先ほど委員からも出ていましたけど、50番51番のところですね。これはごもつともだと思いますけれども、ここに来ますとですね、前段のずっと書いていることがそのために、という流れがね、ここに来ますので。この位置は工夫された方がいいかと思いますし、被爆者とか被爆体験者というのは、長崎の人とか広島の人には分かるのですが、多分国内でもここまで理解できているか分からないし、世界に行くと、もっと、区別が多分つかなくなるのではないかなという気がします。

それからですね、3番目、最後ですけれども、これも皆さんから先ほど委員とか委員から出ていました「長崎を最後の被爆地に」のことですけれども、これは構成の中で、52番から主張が、要するにもう被爆者がだんだん減っていく中で、今度は二世でしっかりと引き継いでやっていきますという、こういう意思表示をされるという中で、例えばですけれども、どこに「最後の被爆地に」を入れるかという問題なのですけれども。例えば、「被爆の実相を国内外に伝えていきます」そして「私、長崎市民が、長崎が最後の被爆地であり続けることを心より願っています」とかそういう文言をこの辺に入れる、後ろでもいいですけどね、あとこの文言はいれた方がいいと思います。

委員

まとめていただいてありがとうございます。今まで皆さんがおっしゃったことと重なる部分もあるのですが、私の方では、主には一般市民の方にどう伝えるかというところが非常に重要なかなと思いました。各国の指導者、そして日本政府、そして世界の皆さんという順番でちょっと半ば諦めにも近い形で指導者の方たちにどこまで伝わるのだろうかという部分と、先ほどもあったのですが、一般の方たちの声、その方

ちが政治に参加をするということが一番トップの方たちに対してのインパクトになるかなと思いましたが、この 36 行目のところからのストーリーがうまく伝わるといいなと思っています。先ほどもお話がありましたけれども、まず核兵器が今現実に使われる可能性が非常に高まっているということはお伝えをしたほうが、あまりそのあたりに敏感ではない方たちもいらっしゃるかと思いますので、そこは、最初に言及があったほうがいいかなと思いました。

それから、もう少し実際に使われた場合の恐ろしさを表現する部分も、先ほどご指摘ありましたけれども、そうだなと思いました。

それから、「核兵器のない平和な世界をつくるため」、45 行目のところですね。私たちにできることがたくさんあって、芸術やスポーツなどがその手段になりうるということに記載していただいているのですけれども、どちらかという核兵器のない平和な世界をつくるために芸術やスポーツを通して、平和を訴えましょうというよりは、今、こういう芸術やスポーツを楽しめているという日常があるのは、平和だからこそというか、実際に戦争が起こってない環境にあるからこそ、それが享受できているのだという事実があると思っているので、この日常を守るためにも自分たちがきちんと自分事としてこういう戦争を捉えていかなければならないのだということをきちんと無関心層にも訴えていくべきではないかなと思っています。

心の中で、心で感じてくださいますか平和の砦を築きましょうということもすごく重要なのですが、私たちが声を上げなければ届かないので、おそらく去年は、戦争は嫌だということを訴えましょうということが入っていたのですけれども、そういったちゃんと声を上げて自分たちで自分たちの日常を守っていこうという、意気込みを見せるべきではないかなと思いました。

そこで、先ほどあります、軍拡への警鐘というところも、正直、昔の方からすると軍事費が上がっていることとかも気づいてない若い人たちもたくさんいると思っていて、そこは自分たちの権利であるということもきちんと伝わるようにうまく組み込めるといいのかなと思っています。

あとは 52 行目の市長が「私の両親も被爆者です」とおっしゃる言葉は、非常に私はインパクトがあると思っていて、市長が代わられて初めての宣言でもありますし、そこはもう一番この中にある思いかと思しますので、この言葉がしっかりと届くような場所でお伝えをいただくということが、すごく伝わるのではないかなと思いましたが、50 行目、51 行目の部分についても、ちょっと位置を考えた方がいいのではないかなという話がありましたけれども、その点でも、しっかりと市長の言葉が届くように、うまく順番が、作られると良いのかなと思いました。最後に、「長崎を最後の被爆地に」というのは全体として現実に本当に使われる可能性が今出てきているという状況の中で、もう私たちで最後にしてくれと言えるのは本当に長崎の人しかいないと思いますので、ここはどこか一番伝わる場所で訴えていただけるといいなと思います。私からは以上です。

委員

私、原稿いただいて読んでみると、すっと入ったのですね。というのは非常に読みやすかった。横文字がなくて我々の年代は非常に理解するのが難しい言葉も多々出てくる時代になりましたけれども、非常に難しい言葉がなくて、読みやすかったのですけれども、いくつか少し気になるところがありました。それで私、宣言文というのはどういうことを伝えるのだろうかというのを改めて考えました。

そして、これだけ社会情勢が混沌として変わっていますから、社会の流れに沿ったその年に訴えるべきこと、それは重要ですが、言い続けなければいけないことがあると思うのです。これは何年経ってそっぽを向かれても、私たちの気持ちとしてくじけることなく、言い続けることがある。その中には日本国憲法の平和の理念、これは絶対守ってくれということ、国に言い続けなければいけないと思います。

そして、平和を奪う最大の原因は戦争です、その戦争がなければ核兵器も使われない。そして、その争いをなくしていくのは我々一人ひとりの市民がその思いを構築していかなければ、政治家任せにしてこれだけ言い続けて変わらないというのは、我々市民が変わらないと何も変わらないのだと。政治家任せになっているから、国の動きも分からない。そういうことをもう一度自分自身が一市民として考えないといけないなと思いました。今回市長さんから出ましたけれども、市長さんからの発信は、政治家ではなく市民の代表として、市民目線で市民の言葉で、地球市民の方に届けていただきたいという意味で、私は非常に分かりやすかったと思います。それでいくつか重複しますが、私が読んで感じたことだけ申し上げます。谷口さんは直接本人とも何度もお話をさせていただきましたし、とても私言われたことが理解できました。

ただ、先ほども出ましたが、谷口さんだけではなく、被爆後に、いろんな被爆者から、差別を受けたということ、嘆いていらした被爆者の方もいらっしゃるぐらい、壮絶なものがあったことがありますから、少しそういうものもここに含めてやれると非人道性がもっと伝わるのではと思いました。

それから 29 行目のところですが、日本政府に訴えるところで、まず G 7 議長国の責務と書いていますけれども、これは、ある意味たまたま回ってきた役割でありますので、唯一の戦争被爆国としての責務、だから最初に唯一の戦争被爆国として、また G 7 の議長国として、そしてここに憲法に定められた戦争をしないという平和の理念を堅持してから、核兵器のない世界、遠い未来の理想ではなく、と続けられないかなと思いました。それを願うのはこういうことをちゃんと守ったうえで、世界にものを書いていかなければならないのかなと思っています。

それから 32 行目、これも出ていますが、「積極的な関与」と書いていますが、これは、1 日も早く署名と批准をしていただくということを具体的に求めたほうが聞く方もわかりますし、その言葉はよく一般社会に流れていますから、この宣言を聞く人たちにも

そういうことなのだと分かりやすいのかなと思いました。

それから、次のページの 36 行目、「世界の皆さん、思い描いてください」。とってもいい言葉なのですが、思い描くには、少し何か原爆に関する知識がないとなかなか難しいので、「知ることから始めてください」みたいな呼びかけもいるのかなと。知ること、とにかく何でもいいから知る、関心を持つことからはじめてください、みたいな表現が何かできないかなと思いました。

次の行の 37 行目の「核兵器がもし使われたら」となっていますが、これは戦争によってということだと思うのですね。核兵器が戦争以外でというのはないと思うので、「戦争によって使われたら」ということがあったらもっと分かりやすいかなと思いました。

それから、粉じんが地球を覆って大きな気候変動ということがありますが、私は気候変動よりも放射能汚染だと思うのですね。もちろん、気候変動は起こりますけども、放射能で汚染、放射能に汚染された粉じんが我々の生命や住む場所を奪っていくわけですから、放射能によって汚染されたものだという事は、明確に書いた方がいいのかなと思いました。

それから、45 行目のところの「私たちには、できることがたくさんあります」。先ほど委員がおっしゃった、平和だからこうして私たちが享受できるのだというのは確かに事実、平和だから享受できるということをもう一度思い起こす意味でも、私たちの草の根活動でできることがたくさんありますという、何も大きなことではなくて、日常の暮らしの中で、平和に貢献できることはいっぱいありますよということを市民に訴えていただきたいなど。みんなで、我々でつくるものなのですよということが伝えられたらいいかなと思いました。

それから 50、51 行。日本政府の方にどうしたらという話が出ていましたので、それであればいいと思うのですが、市長の「私の両親も被爆者です」というのが、被爆者の年齢の後にきているのにちょっと違和感があったので、むしろ平和の文化を世界中に広げていきましょう。そして、私もこういう状況ですので、一緒に頑張っていきますというようなことが被爆二世の方のことがあまり出ていませんので、ここでもし余裕があるならば二世もこういう気持ちで不安な生活をしているのですよというのが具体的に入ったら、今の方たちにもう少し伝わるのかなと思いました。

それから最後ですけれども、私も「長崎を最後の被爆地に」というのを合言葉的に今後やっていったらと。昨年もあったかと思うのですが、最後の「原子爆弾により亡くなられた方々に」というところで「長崎は平和を希求する」というところがありますけど、長崎は長崎が最後の被爆地であり続けるために皆さんと一緒に努力し続けますということをもってきたらと思います。

それと放射能汚染という福島はまだまだ本当に大変な状況が続いているので、できれば福島の表現が言葉として入ればより強く訴え続けられるのかなと思います。

委員

今回拝見しまして、とてもわかりやすくまとめていただいております。特に、47、48 行目の部分で市民社会、草の根活動をしている方、それぞれ皆さんに向けて「私たちの心の中に平和の砦を築き、平和の文化を世界に広げていきましょう」というところはすごくよかったなと思いました。委員と、そして委員からもありましたけれども、そういった日常というところが大事になってくると思うので、もちろん平和だからスポーツや創作活動を、自分が好きなことができるというのもありますし。

ただ一方で、日常というのが、この戦争によって紙代が高くなったりだとか、あとは食べ物、好きなものが、例えば小麦の高騰によって高くなったり変わってきているのだよというところがあると。前回の一つのテーマとして挙げられていた、自分事として子供たちがどのようにこの戦争とか、核兵器を使うことについて、考えてくれるかということも大事になってくると思うので、そういった日常というところを大事にできたらと思います。

大まかに見て 2 点あったのですけれども、谷口稜暉さんのところ、冒頭のところをもう少し描写を細かくした方が心に届きやすくなるのかなと感じました。

そして、委員長先のほどの語りを伺っていて、「世界の皆さん、思い描いてください」という 36 行目と 37 行目の部分は本当に語りかけているような、ちょっとこう、温度感があって、すごく心に届いている感じがしたので、例えば、これを最初に持ってきて、「今、78 年前より遥かに強力になった核兵器が」というところから、「心で感じてください」というのを最初に持ってきた後に、谷口稜暉さんは国連などでスピーチをされているのでご存知の方が多いと思うので、その後に、「心で感じてください」の後に「16 歳で被爆し、背中一面に大やけどを負った谷口稜暉さんは」というようにその後の一つとして、1 人の被爆者としてという流れでもいいのかなと感じました。2015 年の谷口稜暉さんの平和への誓いですとか、あと、皆さんそれぞれ記憶にあると思うのですけれども、私も 8 年前だったのですが、その背中を撮らせていただいたときに、ただの背中ではなくて、その赤い背中の一つ大きい谷口さんを象徴するものだと思うのですね。アメリカの少年たちも、郵便配達をしていた 17 歳の少年が、もう人生変わってしまったって。赤い背中の写真を少年に見せたときに、もうその会場がぱっと変わったのですね。なので、背中がというところに、例えば細かく言うと「その少年は」というのは 9 行目のところにまず主語で入れていただくとか。あとは 10 行目を「ただれた赤い背中を見せながら世界中の誰にも 2 度と同じ体験をさせてはならない」というように、もうちょっと踏み込んだ表現があっても伝わりやすいのかなと思いました。

本当にこう、さっきご家族の話がありましたけれども、ずっと何度も 20 回以上の手術を重ねられて、本当に貼り合わせたような感じで痛々しかったですし、やせ細って、触れてみると肋骨の部分が黒く固まってしまっていて、内臓が動いているのが、皮膚が薄いからこそ、そういったものが伝わってきましたし、委員とさっきお話していたので

すけど、ここの背中が薄くて、ゆっくり座れないということで、飛行機の移動中も大変だったというように、こんなに辛い思いをされたのだというのを分かっていたので、そういった「赤い背中」というところですか、詳しい描写が入るといいかなと思いました。

あと、委員からもありました、子供たちが聞くときに音が分かりやすいというのが大事だと思うので、例えば5行目の「床ずれ」っていうと何だろうと、漢字を見ないと分からないかもしれないので、ずっとうつ伏せのままだったのか、ちょっと話し言葉とといいますか、分かりやすい表現がいいかなと感じます。

そして、二個目の入れてほしいなというところが、皆さんもおっしゃっている、「長崎を最後の被爆地に」というのは必ず入れていただけたらと思います。例えば、53行目の「伝えていきます」の後に、もうシンプルに、フレーズとして「長崎を最後の被爆地に」と入れて、54行目にいくのもいいと思いますし、何でこのフレーズを大事かと特に感じたかといいますと、2021年の平和宣言の中で、この「長崎を最後の被爆地に」というのは、これが歴史に刻まれ続けるかどうかは、私たちがつくっていく未来によって決まりますと田上市長が当時おっしゃったのですが、それを聞いた高校生の人生が変わって、遠くから長崎市内の活動にいつも顔を出していて、「どうしてそんなに熱心なの？」と聞いたら、「この平和宣言でこの言葉を聞いたからだ」と言っていたので、長崎からそれを発信するというのがとても大事だなと感じます。

細かいところで言うと、皆さんもおっしゃっていて、ロシアとウクライナの戦争に対する、犠牲になっている方がどんどん増えているっていうところで、長崎市民の私たちとしても胸に痛みを感じているところがあることを入れてもいいかなと思いました。

他に、最後のところで福島というフレーズも入れていただけたらと思います。私からは以上になります。

委員

私の方からは、専門家ではない一若者としての意見として聞いていただけたらなと思うのですが、前提知識のない人や、平和問題とかにもあんまり興味を持っていない、関心を持っていない人でもこのスピーチに耳を傾けてもらえるような、そんなことができたかなということを前提に今から意見を言いたいと思うのですが、

まず、冒頭の「強烈な熱線と放射線によって」という部分、これ、なじみのない人にとっては、ピンとこないこともあるのではないかなと個人的には思っています。例えばですけど、もう少しこう、生々しい言葉、燃えるような暑さとか、私の口から軽々しく言えるような痛みではないと思うのですが、もう少し痛みを感じられるような、自分たちの日常から連想できるような言葉選びというのもできるのではないかなと思いました。

冒頭の部分で、谷口さんのことを引用されたというのがすごくいいなと個人的に思っ

たのですが、それと同時に、このスピーチを、目を閉じて聞いたときに、このスピーチに使われている言葉一つひとつから、当時の情景を、戦争体験者ではない人でも、なんとなくでもいいからイメージできるような言葉選びというのを意識できるといいのかなと個人的に思いました。

次に、15行目の「保有を誇示して」というところ、これも何か言い換え可能なのかなと思いました。

ちょっと戻ってしまうのですがけれども、あと谷口さんのことをメンションするのであれば、例えば「1年9ヶ月もの間」と書かれているかと思うのですがけれども、彼はその1年9ヶ月苦しんで復活したのではなくて、亡くなるまで苦しみ続けたということもしっかり伝えた方がいいのかなと思いました。それこそ「生涯皮膚呼吸」という部分も、皮膚呼吸は、ぱつと言われてイメージできる人は正直あんまりいらっしやらないのかなと思うので、ここももう少し、生々しく、皮膚呼吸とか、ちょっと上の方に大やけどという部分もあると思うのですが、これも経験したことがない人からすると、どうしてもイメージしづらくなってしまいますので、ここももっと生々しい言葉を使って言ったらいいのかなと思いました。それこそ谷口さんが亡くなるまで苦しみ続けたということ。なぜならこれが核兵器だからこういうことが起こりうることなのだということにも繋がられるのかなと思いました。

通常兵器はもちろん駄目だけれど、その中で、なんでこんなに長崎の人がしつこく、しつこく核兵器廃絶を訴えているのか。これは核兵器の威力というか、大きさという部分にも繋がると思うので、ここはしっかりと言葉にして伝えられたらなと思いました。

あと、そうですね、25行目。真ん中よりもちょっと下の部分で、G7サミットのコミットメントという言葉もちょっと難しくなってしまうのかなと思いました。

その後の27行目の部分ですね。「人間の安全保障」、ここも私たちはかぎ括弧付きで文書で読めているので、なんとなくイメージはできるかもしれないですけど、耳だけで聞く人からすると、どうしてもここが「んっ？」となってしまう部分になるかもしれないので、ここももう少し具体的に言葉にできたらなと思いました。

裏にいきまして、39行目、38～39行目らへんですね。ここもすごくいいなと個人的に思いました。ただ、内容の部分で、それこそ前提知識のない人も、この部分はこのスピーチを聞いて、ちゃんとご自分自身で考える部分になると思うので、ここも目を閉じて聞いたときに、それこそその前提知識のない人たちもこの言葉を聞いたときに、うわぁ今の世界ってやばいじゃん、となるような文にすると、よりメッセージ性の強いものになるのではないかなと思いました。例えば、「核爆発で巻き上がった粉じん」という部分とか、もっとこう分かりやすい言葉にしたり、もっと具体的に言ったりだとか、大きな気候変動も、具体的にどういう気候変動が起こるのか、ただ気温が上がるだけではない、気候変動、その部分をもう少し具体的に言えるとわかりやすいのではないかなと思いました。

最後の部分ですね。52 行目から。「私の両親も被爆者です」というこのメッセージ、本当に強いものだと思うのですね、被爆二世というメッセージ。これを世界に向けて発信できる市長は鈴木市長しかいないと思うので、率直に今感じられている危機感、他人事ではない現状というのを、当事者にしか語れない、市長にしか生み出せない言葉があると思うので、ここの部分を率直に今感じられていることを一言でも入れていただけたら、より強いメッセージになるのではないかなと思いました。はい。以上です。

委員

今回のこの文案は、完成度が非常に高いと思います。それで非常に平易に書かれてましてですね、多くの日本人あるいは世界の人たちが読んで分かりやすいと思います。しかしながらですね、分かりやすさのためにですね、非常に重要なものが少し抜け落ちているところがあると思います。特に、第二の被爆地長崎で、最後の被爆地であり続けている長崎が、世界の平和、あるいは核のない世界を目指すことを発信し続けなければいけないという立場からすると、少し問題点があります。

最初に、谷口さんのご経験、体験談が語られているわけですが、これは非常にいいのですが、この時に7万4000人の多くの被爆者が亡くなられ、その後被爆者として生涯苦しんできたという、この部分が欠落している。かなりの長い文章ですので、ここを削ってでもですね、全体像、特に原爆のスケールの大きさというのですね。それから、非常に長く影響を与えていくということの2点が入る構成にしないとイケないのではないかなと思います。

それからですね、次が一番大事だと思うのですが、G7サミットの扱い方ですね。これでは、いささかG7はよかったねというような感じぐらいにしか響かない。国民にも響かないと思うのですね。それはですね、広島ビジョンという明確な文章が出ているのですが、これに直接触れてない。核兵器は必要だということを言っているのですよね、この広島ビジョンは。それで、今の国際安全保障のこの混沌とした状態では核を持ってですね、そこを制御しないとイケないという考え方を示しながら言っているわけですね。それを肯定するか、否定するかということがありますが、核なき世界ですね、将来の理想というか将来の目標にするということを宣言しているわけですから、ここには核兵器国の首脳も入っているわけですからですね。もう少し具体的にどうやったらそれを達成できるかということを、岸田さんが理想とするようなシナリオを述べるべきではなかったかと思うのですよね。これが全くないと。これは日本の国内でも全く彼の政治、核政策は全く同じ事をやっていますよね。全く説明しない。どうやって核なき世界を達成するかということを説明しないのですね。国会で、ある議員さんがG7サミットの後の国会で「どうやるか、具体的なものは何ですか」と聞いた時に、いや、それはこれから1年間でG7サミットの期間なので。これからやるのだとおっしゃったのですが、こういうところが大问题だと思うのですよね。だから、この核兵器を現在必要としてい

る核兵器国の政策をどうしていくかが最大の人類的課題なわけですから、そこをどのように普通にここに書き込むかというのはもう少し深掘りしないといけないのではないかなと思います。先ほど言ったように、核兵器のない世界が理想ということは少し問題かなと思いますね。これは一種、単なる核軍縮の目標なのであるからですね。戦争がないことも大事ですし、核のない世界になった時にその後の安全保障はどうやって達成するのかというような、もっと大きな問題が控えているわけですから、この理想というのは少しイージーゴーイングだと。それをもってG7が成功しているから見なすというのは、少し被爆地としては納得できないという気持ちがないといけないのではないかなと思います。

それから、先ほど委員がすでに説明されましたが、37行目から42行目の「核戦争」ですね。いわゆる戦略核と戦術核の使用の違いというのがあったりして。非常に複雑なわけですから、ここはですね、この書き方と同じことを2回述べているような感じもしますしね、単なる気候変動だけで。非常に危ないのではなくて、長期にわたる放射線の影響とかですね、そういうものを全体で扱わないといけないので、むしろ言葉を選んで委員がおっしゃったように、短い文章にした方がいいのではないかなと思います。

そして「平和の文化」をこの数年、田上市長のもとでこの委員会でも何回も議論しながら、ややこなれてきた感じはいたしておりますけども、「平和の文化」というときに、対極に「戦争の文化」というのもあったように思うのですよね、議論の中で。だから『『平和の文化』を世界中に広げていきましょう』というときに、戦争を克服していくプロセスが入らないと本当の「平和の文化」ではないのではと私は思っているのですね。そういう意味では「平和の文化」をこのように使っていくことはいいと思うのですけれども、もう少し戦争を克服することの、長崎からの何らかのですね、メッセージ性のある言葉を今後は作っていかないといけないのではないかなと思います。そういう意味ではですね、元に戻りまして、15行目から16行目ですね。現在、色んな国が、特にロシアが核兵器の威嚇をやっていますけどもですね、はっきり国名を出さずに、このような書き方をしていくということ自体が長崎からの平和宣言としては、弱いと思うのですよね。そういうところを是非考えていただければと思います。以上です。

委員

私も皆さんと同じように、大きくは今回の草案の構成ですか。この構成でいいのではないかなと思いました。同時に分かりやすい文章なので、そのトーンも基本的にいいのではないかなと思いました。割と重複した意見になっていくと思うのですけれども、とりあえず私の気になったところを申し上げていきたいと思います。

一つは、稜嘩さんの話を冒頭に持ってこられた。とりわけですね、「忘却が新しい原爆肯定に流れていくことを恐れます」という現時点で彼の言葉を私たちが受け止めないといけないというその部分を見つけていただいたというか、その引用があるというので、

非常に適切な証言を見つけていただいたと思いました。であるが故にですね、稜擘さんの言葉と現在との結びつきをもう少し文章上で明らかにした方がいいのではないかと思います。具体的にはですね、14行目、「未来への継承でした。」確かに未来への継承だったと思うのですが、今まさにそれから現実になっている警鐘だということを、その次でおそらく15行目から17行目が、現在そのことがまさに起こっているのだということを書いた部分だと思うのです。ですから、14行目の「未来への」という言葉は要らない。むしろ、「恐れます、という警告でした」のように言って、それでその次の16行目から17行目に流れているところに、もう少しはっきりと稜擘さんの言葉を引き継ぐような文章にしたらどうか。例えば、こうした国際社会のありようは、「まさにその警鐘が現実になっていることを示しています。」というような、文書は多少どうでもいいのですけれども、彼のこの引用となぜ今その言葉が大事かということを確認にすることを提案したいと思います。

それから細かい話ですけど、22行目から23行目のG20サミットの引用は、この間が消えている。「核兵器の使用又はその威嚇は許されない」という言葉と、「今日の時代は戦争の時代であってはならない」というのは繋がっていない文章なので、間に…を入れるか、二つの引用を切ってしまうか、二つを並べるとするか、そのようにすべきだと思います。

それから、割と大きいことなのですが、サミットに先ほどから出ている批判とも重なるのですが、『人間の安全保障』の視点から対話を進め」というのはあまりにも抽象的な表現で、もっと具体的な諸要求をここで述べたほうが良いと思います。ですから、思い切ってですね、『人間の安全保障』の視点から対話を進めて」というのはやめて、「大きな光」に、全て「具体的な行動に結びつけることを強く求めます」、その後、具体的な行動のいくつかを書く。いくつかというのは結構難しい、と思いつきながら考えたのですが、今すぐに言いたいことは核兵器を減らせということではないかと思うので、「具体的な行動に結びつけることを強く求めます」その後、「圧倒的多数の核兵器を持つ米国とロシアを先頭に全ての国の核兵器の削減を本格的に進めることが何よりも必要です」。例えばそういう感じで具体的に今一番すべきことは何かということを書いたものとして掲げる必要があるのではないかと思います。

それから、先程どなたかおっしゃっていましたが、G7議長国の責務としてというよりも、「唯一の戦争被爆国の責任として」と言うべきではないかと思います。

それから32行目の核兵器禁止条約の前についている言葉というのは非常にまずいと思うのです。核兵器のない世界のゴールと捉えるというのは、岸田さんから時々これは出口の条約だとおっしゃっているのですが、禁止条約をつくる時の努力を思い返していただければ、とにかく非人道兵器であることを再認識するために、3度ですか、4度ですか、シンポジウムを開いて非人道性ということを書き押さえる。そのために禁止すべきであろうということを書いた、出発点となる条約。核兵器のない世界に向か

うという出発点となる条約というものをつくろうという努力であったと思うのですね。ですから、検証の制度もないですし、どちらかというと、原理を条約としたということであって、決してそのゴールの出口ではないという主張だと思うので、この形容詞はまずいと思います。

それから、37行目から42行目。これは何人かの委員が既におっしゃったことで、行ったり来たりしているという感じがあります。最初に書かれている、気候変動というのが、核の冬のことだと思うのですね。地球全体が粉じんでは気温が下がって作物が採れなくなると、飢餓が地球を覆うというようなことを言っているのだと思うのですが、それも、私の知る限り、一発でという話ではなくて、核戦争があつて、核の打ち合いですね、核戦争が起こった時のシナリオの分析だと思います。ですから、37行目から42行目で、核戦争の結果を「思い描いてください」というところの中身をもう一度整理する必要がありますのではないかと。結果としてこの部分で世界の皆さんに言っていることは、とにかく被爆地を訪れて、実相を目で見て心で感じてくださいというメッセージのようなので、とにかくそのことに繋がるような、思い描くこともできるように作りかえたほうがいいのではないかと思います。

それから46行目、47行目の「平和の文化」のところは、何か少し、非常に抽象的なことが書かれている感じで、もう少し中身に踏み込むのか、「平和の文化」の中身を語るのか、一人ひとりの人が何かができるっていうことに繋がるような表現の方がいいと思いました。「平和の文化」という言葉そのものが、好きな言葉なのですが、少しこの流れの中では抽象的に響きました。

それから、最後の部分ですけれども、「長崎を最後の被爆地に」というのは皆さんおっしゃっているとおり、とにかく繰り返し、繰り返し私たちの決意として、繰り返した方がいいのではないかと思います。以上です。

委員長

これで皆様方お一人お一人のご意見について承りました。今お聞きした中で、共通の点も多々あったかと思えます。

まずはですね、全体の構成については皆様方からですね、肯定的なご意見をいただきまして、おおむねいいのではないかとということだったかと思えます。そのように理解しておりますが、この全体のおおむねの構成についてはですね、何かご意見ございますか。

はい。それではとりあえずおおむねの構成はですね、この構成を維持したまま、次の案を作成したいと思います。

それから、冒頭の谷口稜暉さんの体験について書かせていただいております。これについても肯定的なコメントを皆さんからいただいておりますけれども、これもこのままいかせていただきたいと思います。何かご意見ございますか。

委員

谷口さんがずっと言ってらっしゃったことがあるのですが、核兵器だけは使わないでくださいと。とにかく核兵器だけは使わないで。もう人間が人間の姿でなくなっていく。

ある時、修学旅行で来た子に聞かれたことがあるのです。何が平和ですか。そうね、いろいろあるけどね、私、人間として生まれたのだから人間らしく死にたいと。人間として生まれたのよ、そしたら私は人間らしく死にたい。谷口さんが本当に言ってらっしゃったのです。核兵器だけは使わないでください。それをずっと谷口さん言っていらして、2017年に亡くなりましたよね。谷口さんが亡くなる3か月前ですよ、核兵器禁止条約が通ったのは。それで子供たちによく話すのです。「核兵器禁止条約通ったのよ、122の国が賛成って言って通ったの」って。みんな「おお、おお」っていう。「でもね、核兵器を持っている国はこれに入ってないのよ」って言ったら、また子供が「えっ」という顔で。先ほど委員の方から数が出ましたよね、38億とか。だから本当にこの核兵器だけは使わないでというのはもう、持っている国がね、もうちょっと分かってくださいよと。核兵器はね、もう絶対に使わないのだった。それを谷口さんがおっしゃっていた。冒頭谷口さんに出てもらうという私はそういう気持ちがあります。

私は実はですね。今日この会が終わったら別の会に人権学習のほうに行くのですが、これ、何の葉っぱかお分かりですか。何の葉っぱ。柿の葉っぱです。柿の木。柿の葉っぱというのが、私なんか被爆しているから、それこそもう、髪が抜けている、こうして私なんかお腹壊したんですよ。そしたら、ある人が言ったのですよ。今度の爆弾には毒が入っていたのではないかと。放射能なんていうことは本当に知りませんでした、あの頃。今度の爆弾には毒が入っていたのではないか。じゃあ、この毒を消すにはって言われたのがこれです。柿の葉っぱですよ。この柿の葉っぱを煎じて飲んだら治るっていう。それで今の子どもに私言います。煎じるということはお湯を沸かすことよね。ガスコンロなんかないよ、戦争の時。湯沸かしポットなんかとんでもない。私たちはこの葉っぱをそのまま口に入れて、どうぞ体から毒が消えますように、毒が消えますようにと。

はい。だから本当にそうですよ。核兵器、谷口さんがおっしゃった核兵器、だからこれは今、全世界の人に核兵器だけは使うなど、使ったらどうなるかね。そのように、だからそういうのが、谷口さんずっと言っていらした、3か月前に亡くなったけど、そういう気持ちがあってこの文章は読みました。

委員

細かいことなのですが、谷口さんのその背中での表現で、先ほどどなたか赤い背中、とおっしゃったのですが、僕は彼のトレードマークみたいな赤い背中というのは、外国の人も言えば想起されると思うし、医者としてはですね、背中の皮膚呼吸ができないというのは、意味がないような気がするのです。人間はあんまり皮膚呼吸を使ってないので。これを言うと何かハテナ印がいっぱい出てきそうな気がするのです、これはどなた

の文章が引用されたかよく知らないですけど、あんまり書かないほうがいいような気がするんですけども、何か委員意見ありますか。

委員

皮膚呼吸はそう言われると確かに、あまりにも明確に皮膚って書いてありますからね、体温調節がうまくいかなくなっておられたのは事実ですよ。それは皮膚呼吸のせいではないと思いますけどね。結局発汗ができないとかですね。それで体温が下がらないとかですね。

委員

この文書はですね、細かく言うと、例えば、最初の強烈な熱線と放射線によって背後から焼かれているのは、これ谷口さんはいつ言ったのかなと思うのですよね。自分の体験として。相当後じゃないかなと思うのですよね。

もう原爆がどういうもので、熱線もあり、放射線もありですね、いろんなものの知識が備わってから自分の体験を整理されたときに、今こういう順番で自分は背中をやられたのだな、とおっしゃったのだらうと思うのですよね。だから最初にこういうことを言うはずはないわけですよ。

委員長

今の谷口さんの体験を引用してきた言葉についてですけど、事務局の方から何か補足ありますか。いつ頃のものかとか、どういうシチュエーションだったのかとか。

事務局

先ほど、委員がおっしゃったように、2010年のNPT再検討会議の時の谷口さんのスピーチから引用しております。以上です。

委員長

はい。ありがとうございます。それで、谷口さんのスピーチをそのまま引用しているということですので、先ほど、委員の方から、もっと分かりやすい表現の方がいいのではないかというお話もありましたけれども、本人の直接の言葉なので可能な限り、本人の言葉を尊重した方がいいのかなという思いもあります。そこはいただいたご意見も踏まえながらまた考えたいと思います。

委員

先ほど委員からありました、谷口さんがその時だけが痛かっただけではなくて、その背中には7万4千人分ものその悲しみとか、辛さとかそういったものをずっと背負って

きているというものが、冷戦の時代からもずっと謳い続けられてきているので、そういった多くの人、自分1人だけではなくて、みんなの中の一つなのだという表現が加わるといいかなと感じました。

委員

谷口さんのことも含めて市長のメッセージが世界で、ある意味一つのスピーチとして使われるときに、1940年代に、日本はアメリカを含む連合国と戦争していて、米国が日本に原爆を落としたという事実を、述べておかないと、もちろんそれを知らない世界の国々の方もいると思いますし、どこかにその表現、原爆を語るときに、その表現がいるのではないかなと感じています。

委員長

ご意見ありがとうございます。他にご意見ありますでしょうか。

それでは、谷口さんの体験の引用の部分ですね、今いただいたご意見も踏まえまして、また次の案を作成したいと思います。

それから先ほど、委員の皆様からご意見をいただく中で、共通にお話がありましたのは、最後に、「長崎を最後の被爆地に」と、これまでずっと訴えてきたこのフレーズ、それに関する内容を盛り込むべきではないかというお話が多かったかと思えますけれども、これを踏まえて盛り込むことで、次の案は考えたいと思っております。これに関して何か補足とか、あるいは違う意見とか何かございませんでしょうか。はい。ありがとうございます。ないようでございますので、それでは、「長崎を最後の被爆地に」というフレーズ、これを追加したうえで、また全体の構成を考えていきたいと思っております。

それからですね、比較的ご発言が多く、賛否もございましたのが、G7サミットに関する言及でございます。G7サミットについてですね、もっと、結果に対する否定的な見解も含めてですね、両論併記というか、賛成の立場もあるけれども、同時に、こういう否定的な見方もあるということ、そこは入れた方がいいのではないかと。そういうご意見が多かったのではないかと思っております。そういう観点からですね、このG7サミットに関する表記ですね、もっと具体的に、どういう点についてですね、ちょっと残念であったかということも含めてですね、言及するということを検討させていただきたいと思っております。これについて何か、コメント等ございませんでしょうか。

委員

具体的にあるというよりは、感じたことになってしまうのですけれども、谷口さんの部分に繋がるなど、今ふと思ったのが、前回は私の方から言ったかもしれないのですが、谷口さんの密着したドキュメンタリー番組を見たときに、私の心にすごく刺さっ

たのが、被爆者は見世物ではないという彼の言葉が私はすごく印象に残っていて、この言葉を胸に、G7サミットを見ている、すごく思ったのが、なんていうのでしょうか。献花するだけなら、被爆地で献花をするだけなら正直誰にでもできる。でも、そこにどれくらい心がこもっているのか、そのリーダーたちの心にどれくらい本気で核廃絶をしようとしているのか、どれくらい心を込めているのかというところを、私たちは正直求めているので、そこもしっかりとスピーチの中でもメッセージとして伝えられたらなっているというのが、今ふと思ったことです。

委員

核保有国が存在して、核政策を維持していると。日本は、他の国もそうですが、核の傘の下にあるということですね、そういう中でのG7サミットですから、大変難しいことを議論しているわけですね。将来的に核のない世界をつくるためにどうしたらいいかという具体案を練っていくことは、これはもう誰がやっても大変なことだろうと思うのですよね。そのときに核を減らしていくとか、いろんな方策が議論されて、とりあえずはどういう方向を目指そうかという、これが全然ないというのが、我々が広島ビジョンを見てですね、なぜ広島でやったサミットで、それが出てこないかというところに、一番疑問というかね、不安を感じたところですね。

だから、今後やるのだとおっしゃったのですが、その後ですね、それをやっぱりやるのがG7サミットの間じゃなかったかなと思うのですけどもね。ちょっとそこが残念だったということで、それを指摘するぐらいのところでしようかね。取り上げるとすればですね。

委員長

はい。どうもありがとうございました。他にこの件について何かご意見ございませんでしょうか。なければ、いただいたご意見を踏まえ、この点についても、また書き直しまして、次の委員会において、案を提示させていただきたいと思えます。

終了時刻12時としておりますので、議論の方は終了させていただきたいと思えます。本日は活発なご意見をいただきまして、ご討議いただきまして、誠にありがとうございました。

次回はですね、最後の会合となりますけれども、本日のご意見を踏まえまして、修正を加えた平和宣言文案を、再度皆様の方に御提示させていただき、そして改めてご意見を賜りたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。それでは本日は長時間にわたりありがとうございました。お疲れ様でした。

以上